

学力向上に向けて

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果と今後の取組について

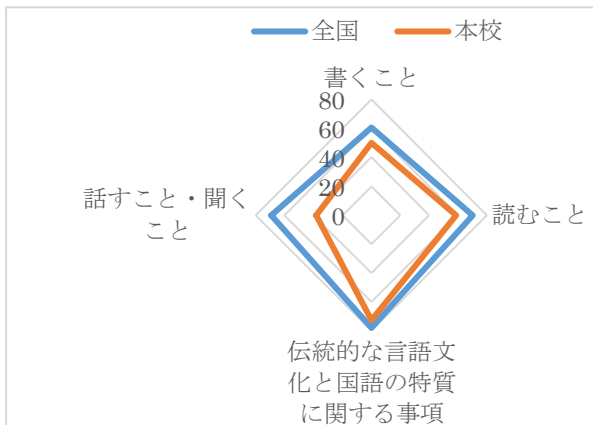
1 国語

	海田西小	全国
国語A	67	74.8
国語B	49	57.5

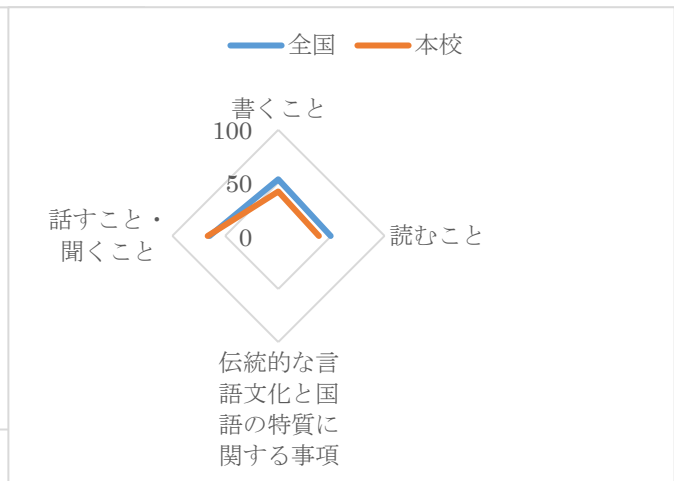
【全体的な傾向】

- A問題（主として知識）・B問題（主として活用）ともに、無解答率はほぼ0%であったが、全国平均正答率を下回った。
- 漢字の読みやことわざの意味などはよく理解できている。

領域等の平均正答率の状況 国語A



国語B



【重点課題1】

- 国語A「お礼の手紙を書く」でどのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する問題→本校61.9%（全国79.7%）
 - ・内容をよく読んで文脈から考えることができず、場面全体でおおまかな捉え方しかしていない誤答。
- 国語A「お礼の手紙を書く」で手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名の位置について適切なものを選択する問題→本校38.1%（全国41.5%）
 - ・手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名の位置関係を押さえることができず、手紙の形式が理解できていない。

【重点課題1に対応した改善指導内容および方法】

- ☆手紙の形式を指導するとともに、実際にお世話になっている人にお礼の手紙を書いたり学校行事の案内文を書いたりする。
- ☆目的や意図を明確にして、そのために必要な内容を整理して書く活動を仕組んでいく。

【重点課題2】

○国語B「水やりに協力してくれる人をぼ集めます」というお願いの文を，中学生のアドバイスを基に書く問題→本校14.3%（全国33.0%）

- ・中学生のアドバイスを読んで，水やりが大変な理由を読み取っていないために，書けない。
- ・「理由を2つ書くこと」という条件があったのに，1つしか書いていない誤答。

【重点課題2に対応した改善指導内容および方法】

- ☆目的や意図を明確にして，そのために必要な情報を整理する活動を仕組んでいく。
- ☆考える視点や話し合う視点を明確にして，理由を説明したり共通点や相違点を整理したりする活動を取り入れた授業づくりを行う。

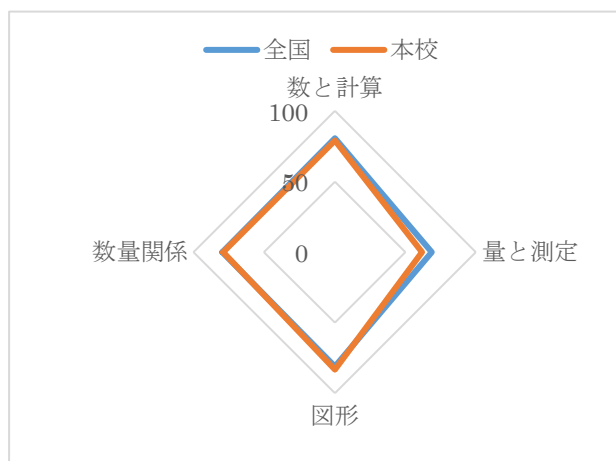
2 算数

	海田西小	全国
算数A	78	78.6
算数B	43	45.9

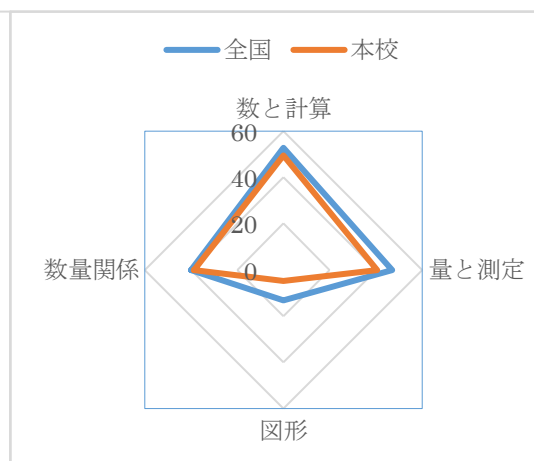
【全体的な傾向】

- A問題（主として知識）は全国平均正答率とほぼ同じで，無解答率が0%であり，基礎的・基本的な内容はほぼ定着しているといえる。
- 四則計算の正答率は高かった。
- B問題（主として活用）では，全国平均正答率をやや下回り，日常生活に即した問題解決の場面を設定して取り組む必要がある。

領域等の平均正答率の状況 算数A



算数B



【重点課題1】

○算数A 示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を選ぶ問題

→本校57.1% (全国67.0%)

- ・高さが等しいときの底辺と面積の関係が理解できておらず、底辺を半分にした三角形を選んでいる誤答。

【重点課題1に対応した改善指導内容および方法】

☆公式を学習する際、公式を導き出す活動やその公式が成り立つ意味を見出す活動を大切にし、実感を伴って理解できるようにする。

【重点課題2】

○算数A 二次元表の合計欄に入る数を書く問題→本校42.9% (全国62.8%)

- ・二次元表の見方が理解できていなかったり、2つの観点に着目して考えることができていなかったりした。

【重点課題2に対応した改善指導内容および方法】

☆表やグラフを正しく読み取ったり作成したりする活動を取り入れる。また、社会科や理科など他教科でも場面に応じて取り上げ、表やグラフが有効的に活用できるようにする。

【重点課題3】

○算数B 与えられた情報から、基準量・比較量・割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く問題→本校4.8% (全国13.2%)

- ・割合(百分率)を求める際の、「もとにする量」と「比べる量」の関係が理解できていない。
- ・「最大の満月の直径」にあたる数値を求めることはできているが、100円玉と500円玉の直径の差を説明できていない。

【重点課題3に対応した改善指導内容および方法】

☆具体物を使ったり操作活動を取り入れたりして、見通しをもって問題解決に当たれるようにする。
☆既習事項や数値を使って根拠を明らかにして説明できるようにする。